子どもの健康づくり連携事業＜専門医の派遣＞実践例

高等学校⑦

〔専門医による講話〕
1　テーマ「PMS 症候群と月経困難症について」
2　対　象　全校生、教職員
3　専門医　金子　宙夢　医師
　　　　　（日本海総合病院）
4　実施月　10 月
5　内　容（キーワード）
　PMS、PMDD
　低量用ピル、HPV
　女性への思いやり（男子生徒へ向けて）

評価（あてはまるものに〇をつけ、理由を記入）

①健康課題の解決について
（〇）有効だった
（ ）有効でなかった

＜その理由＞
＊『PMS』というワードを聞いたことがない生徒がほとんどであったが、症状を提示されたときにほとんどの女子生徒が心当たりのある反応を示していた。体のメカニズムと月経時の自分の変化に気付き、自分の体調に関心を向けることを促す非常に勉強になる講演をしていただいた。

②保健教育における校内連携について
（〇）有効だった
（ ）有効でなかった

＜その理由＞
＊職員会議で全職員の共通理解を得た上で実施した。今回、男子生徒も一緒に講話を聴くかたちで行ったが、「よりよい男女関係を築く」という観点について全職員の理解を得ることが出来た。

③校外の関係機関等との連携について（派遣専門医を含む）
（〇）有効だった
（ ）有効でなかった

＜その理由＞
＊婦人科を受診することのハードルが高い生徒もいるが、気軽に相談してよいことなどをお話し頂いた。その際に必要となる情報（月経周期の記録）を正確に把握しておくことの大切さにも触れていただいた。

〔教科やその他の指導との関連性〕
〇月経痛や月経前の精神的な症状を訴えて保健室を来室する生徒もいるため、今回の講話の内容を振り返る形で自己理解を促し、場合によっては受診を勧めていきたい。

〔受講者の感想など〕
〇生理痛の鎮痛剤の服用方法について詳しく学ぶことが出来た。気軽に質問することが出来る先生で、非常に良かった。